



2025年度

(令和7年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2025年度 事業方針
- 2 2025年度 法人 事業報告
- 3 2025年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2025年度 小学校 事業報告
- 5 2025年度 こども園幼稚園 事業報告

第3 財務の概要

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称： 学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所： 大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号： 072-721-7680
設立： 1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839 年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としている。聖マリ・ウージェニーは、1817 年 8 月 25 日フランスのメッツで生まれ、2017 年 8 月に生誕 200 周年を迎えた。聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立した。日本では、1952 年にフィリピンとヨーロッパから 5 人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備し、1954 年に学校法人として認可されて以来、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

LIFE 生き活きとエネルギーに生きる人
TRUTH いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人
FREEDOM 周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人
GOODNESS 人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人
ONENESS 誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可
1987 年（昭和 62 年）4 月 1 日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に
名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日 幼稚園設置認可
1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日 小学校設置認可
1959 年（昭和 34 年）11 月 6 日 中学校設置認可
1962 年（昭和 37 年）9 月 29 日 高等学校設置認可
1967 年（昭和 42 年）1 月 23 日 短期大学設置認可
2005 年（平成 17 年）7 月 29 日 短期大学閉学認可
2015 年（平成 27 年）3 月 31 日 幼稚園廃止認可
2015 年（平成 27 年）4 月 1 日 認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
 2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
 2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
 2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2025 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分	収容定員数	現員数	収容率
	(A)	(B)	(B/A)
こども園アサンプション国際幼稚園	324	202	62.3 %
アサンプション国際小学校	480	365	76.0 %
アサンプション国際中学校	240	147	61.3 %
アサンプション国際高等学校	360	358	99.4 %
合 計	1404	1072	76.4 %

(5) 役員、評議員の概要

2025 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職 務	定員数	現員数
理 事	5	5
監 事	2	2
評 議 員	11	11

(6) 教職員の概要

2025 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教 員	本 務	17	35	11	31	96
	兼 務	20	10	10	10	50
職 員	本 務	1	4	2	5	12
	兼 務	1	7	2	2	12

第2 事業の概要

1 2025 年度 事業方針

（事業目標）

- (1) 2025 年から同年を初年度とする 3 ヶ年計画を作成、収支目標の要となる入学者数目標として下記を設定し、最終年度の 2027 年度の入学者数目標を 2028 年度以降も目標として継続することを決定した。（2025 年度は実績を計画とした）

	2025 年	2026 年	2027 年
高等学校	96	120	130
中学校	47	55	60
小学校	56	50	60
幼稚園	70	75	80
合計	269	300	330

(2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。また幼稚園についても小学校への内部進学拡大も考慮し、2027年度から縦割り英語クラスの導入を決定した。

(3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

- (1) 学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化する。
- (2) 学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにPBL「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。
- (3) 学院の「教育の3本柱」は、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育)・英語教育・ICT教育である。所属ごとに年齢に合った教育活動の土台とする。
- (4) ICT教育においては、小学校2年生からiPadを一人一台所持する。
- (5) 学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ学院として学びの共同体となる。

2 2025年度 法人 事業報告

(1) 3ヶ年計画の作成

2025年度の入学者数は、全校で269名と2021年度以来初めて300名を割る結果となり、在校生数も、3年ぶりに1100名を切る結果となった。このような状況を背景に、また本校のカトリック校としてのアイデンティティを確かにするという思いも込めて、各校種および法人本部で2025～2027年の3ヶ年計画を作成した。2026年度については小学校を除き入学者の回復が認められるが、高等学校130名、中学校60名、小学校60名、幼稚園80名を継続的な入学者目標として取り組んでいく。

3ヶ年計画入学者数進捗状況

	2025年度		2026年度		2027年度
	目標	実績	目標	実績	目標
高等学校	96	96	120	140	130
中学校	47	47	55	52	60
小学校	56	56	50	49	60
幼稚園	70	70	75	81	80
合計	269	269	300	322	330

※初年度の2025年度は目標と実績が同じ。

入学者数・在籍者数推移

入学者数(単位:人)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
高等学校	124	155	132	96	140
中学校	48	56	52	47	52
小学校	68	67	55	56	49
幼稚園(認定こども園)	82	84	65	70	81
合 計	322	362	304	269	322

在校生数(単位:人)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
高等学校	314	376	381	358	356
中学校	132	136	147	147	143
小学校	399	401	381	365	344
幼稚園(認定こども園)	238	251	218	202	213
合 計	1,083	1,164	1,127	1,072	1,056

(2) 施設設備工事等

2025年度の主な改修工事は次のとおりである。

- ・小学校校舎前床タイル補修工事
- ・消火ポンプ交換工事
- ・中高音楽室空調更新工事

3 2025年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の進化と深化

【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校60名以上、高等学校130名以上の入学者確保。
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保について

(1) 中学入試結果

	志望						受験	入学		
	帰国生	A午前	A午後	B日程	C日程	合計	合計	併以外	併設小	合計
2026年度入試	0	21	12	9	－	42	41	26	26	52
2025年度入試	0	22	13	16	－	51	42	24	24	48
2024年度入試	0	28	13	21	－	62	58	25	27	52

1) 募集状況

- ・学校内外の説明会参加者は534名。(2025年度445名)89名の増加
- ・今年度サッカー部生徒志願者の目標を13名と設定したが、入学8名にとどまった。

2) 受験状況

- ・併設小からの進学者が26名(昨年比2名増)
- ・志願者はのべ42名(昨年比9名減)

3) 入学状況

- ・入学者は52名(昨年比4名増)
- 併設小からの入学者が26名と、増加
- ・併設小以外・サッカー以外の入学者が18名と低いラインで横ばい
- 併設小・サッカー部との人数バランスを取りどのグループも少数としない戦略が必要

4) 分析

- ・大阪府の中学受験の割合が10%を越えて、勝ち組と負け組がはっきりしてきた。アサンブションが勝ち組に入るためにもさらなる対策が必要である。
- ・中学校の教育的な魅力創出(学校行事、海外修学旅行、教育課程の検討)
+中堅他校のような奨学金制度などの整備も必要である。
- ・SNSの効果的な利用も必要である。
- ・内部小学校からの優秀な生徒の取り込みが必要である。そのためには積極的な広報活動とともに、内部小学校向けの奨学金などの制度も構築していく。

(2) 高校入試結果

	帰国		1次		1.5次		合計				合計	
	専願	併願	専願	併願	専願	併願	専願	併願	併以外	併設中		
2026年度入試	0	1	83	57	0	9	83	67	97	43	140	※併願戻り16/67(24%)
2025年度入試	0	3	51	69	2	3	53	75	65	31	96	※併願戻り14/75(19%)
2024年度入試	2	2	84	92	0	2	84	94	102	30	132	※併願戻り18/94(19%)

1) 募集状況

- ・併設中からの進学者は43名
- ・新しく男子バスケットボール部を準強化クラブとした。

2) 受験状況

- ・1次入試の受験者は141名と昨年度の123名から増加した。
- ・本校の強みであるイングリッシュコースへの受験者もかなり増加した。
- ・アカデミックⅡ類の出願も14名あった。

3) 入学状況

- ・入学者は140名となり、大幅増となった。
- ・専願希望者が併願希望者を大きく上回った。私立高等学校授業料完全無償化の影響である。

4) 分析

- ・私学助成の拡大による私学人気の追い風によることは否定できない。
- ・その一方豊能・吹田市といった近隣地域からの受験者が多くを占めることから、広報活動だけでなく、普段の部活動による交流や校長や学校が変化しないことによる安定感、入試訪問等による信頼関係構築など地道な活動が結果に結びついている。
- ・来校した中学校はすべて訪問フォローした。結果として受験につながっている。
- ・学校説明会では、在校生を多く出演させたことが受験生の高評価につながっている。

- ・学校ブログや SNS を効果的に使う必要がある。

2. 教育力の向上・教育環境の充実

(1) 教員研修の充実

- ・2月に授業力向上を目指した新任研修・新任教諭による研究授業を実施した。
- ・「私学マネジメント協会」の会員になり、校外の研修会に参加することを奨励した。

(2) 学習メンターと連携した教育環境の整備

- ・「トモノカイ」と連携し、放課後の自習室・中学チャレンジタイムに現役大学生「学習メンター」を派遣する取組みを進路指導部を中心に取り組み前年度比120%の利用があった。
- ・放課後の自習室について、開室時間を広げかつ学習メンターを配置することで、生徒が気軽に進路や勉強について質問できる環境を整備し、意欲ある生徒を応援する取組みを始めた。
- ・中学校チャレンジタイムを導入し、授業を受けるだけでなく自分で課題に取り組む時間を設けることで自学自習習慣の確立を目指した。
- ・各学年のLHRにおいて、学習メンターと連携し、進路や入試・勉強の仕方などを教員とは違う立場で生徒に説明する機会を増やし、目的意識を持たせるように取り組んだ。
- ・英検などの資格試験の対策なども「トモノカイ」を利用した。
- ・来年度からは試験中、土曜日も自習室を開室する予定である。

(3) グローバル教育の充実

- ・海外研修・ターム留学・コリブリ（日仏交流）において、生徒が実際に海外を訪問して学ぶ機会の提供を行った。
- ・海外大学・留学ガイダンスなど生徒や保護者向けに情報を発信する機会を増やした。
- ・マレーシア・韓国などに新たに提携大学を増やし、海外大学進学への選択肢を増やした。
- ・中学校3年生は初めての海外修学旅行（ベトナム）を実施した。

(4) 進路実績の向上に向けて（生徒の第一志望進路実現100%を目指して）

- ・2024年度よりの45分授業導入に合わせて、朝のモジュール学習を取り入れ、自己調整学習アプリ「モノグサ」を使った毎朝10分の学習タイムを導入し、英検合格実績を上げることで、大学選定の幅を広げる。
- ・多様化複雑化する大学入試に対応し、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など受験種別ごとのガイダンスをこまめに実施し生徒への情報提供を充実させた。
- ・保護者向けにも進路ガイダンスを実施した。
- ・大学出張授業、学部学科ガイダンスなど大学での学びについて、大学関係者に直接話を聞く機会を設け、生徒に大学での学びのイメージを持たせるようにした。
- ・志望理由書の作成・面接練習に、多くの教員が専門性を生かして関わり指導し、総合型選抜入試などで実績を上げることができた。
- ・連携協定校である関西学院大学への進学を意識させ、今年度も20名以上の生徒が進学した。
- ・国公立大学への合格者は6名であったが、今年度より共通テスト後に出願検討会を実施し、生徒の進路実現に役立てた。
- ・海外大学にも3名が進学した。

(5) 働き方改革の実践

- ・「トモノカイ」に代表されるようにアウトソーシングを利用しての教職員の負担を軽減し、教材研究、生徒たちと向き合う時間の確保を推進している。
- ・課外活動においてもクラブ指導の外部委託、研修旅行の教員の付き添い軽減などを検討中である

3. 施設の整備

(1) ICT環境の整備

- ・政府の補正予算の補助金「DX ハイスクール」を利用して、メディアルームの機器・設備を改修し、今の時代に合った新しい機材を用いた教育を行い理系人材の育成を目指している。

(2) 施設・環境の整備

- ・生徒から要望の高い第二体育館、更衣室の環境改善について検討し、冷房設備の導入をめざし、2026年度夏に導入が決定した。
- ・老朽化が進んでいる他の空調設備についても順次入れ替えていく計画である。
- ・各教室のプロジェクター・スクリーン、講堂の放送設備・スクリーンなど老朽化が進むものが多く、段階的に整備することを法人本部と協力して行っていきたい。

4 2025 年度 アサンプション国際小学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着～

【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の改良と組織化
- (3) 学院的課題…募集 70 名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【2025 年度入試(2026 年度入学)結果】

	全体	イングリッシュコース			アカデミックコース		
		合計	男子	女子	合計	男子	女子
受験者	68 (内部 9 含む)	44(内部 5 含)	27	17	24(内部 4 含)	13	11
合格者	63 (内部 9 含む)	34(内部 3 含)	17	17	29(内部 6 含)	18	11
辞退者	14 (内部 0)	9(内部 0)	7	2	5(内部 0)	3	2
入学	49 (内部 9 含む)	25(内部 3 含)	10	15	24(内部 6 含)	15	9

・2023 年度より、イングリッシュコース 1 クラス・アカデミックコース 1 クラスの 2 クラス体制とした。しかし、クラス数が減になることがマイナスイメージとなった可能性がある。

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

①研究研修体制

2027 年度に本校を会場校として実施される西日本私立小学校連合会教員研修会に向けて研究研修部が中心となって教員研修を進めた。外部講師を招いて授業研究を進める中で、研修会のテーマ設定を行うことができた。個別最適な学習を目指し、児童が個々に振り返りをしつつ目標を修正できるようループリッスを効果的に採用することとした。また、新任研修も頻度を上げて行うことができた。

②PBL

PBL に対する教員間の理解がさらに深まり、「特別な活動」ではなく、日常の授業の中に自然に組み込まれる学びとして定着が進んだ。各教科・学年において、探究的な学びや課題解決型の活動を意識した授業実践が増加し、児童が自ら問いを立て、対話しながら学びを深める場面が多く見られるようになった。特に若手教員による積極的な実践・共有が進み、校内研修や研究授業においても具体的な成果を発表することができた。また、「思考の可視化」や振り返り活動を取り入れることで、児童自身が学びを調整しながら主体的に取り組む姿勢の育成にもつながっている。

③ICT 活用

iPad 活用が日常的な学習基盤として定着し、ICT を「使うこと」だけでなく、「ICT を活用してどのように考え、表現し、協働するか」を重視した授業実践へと移行してきている。今年度はLTE仕様iPadの運用がさらに進み、校内外を問わず柔軟に学習活動を展開できる環境が整ったことで、探究活動や調べ学習、発表活動の幅が広がった。また、ロイロノート等を活用した思考共有や振り返り活動も定着し、児童同士が互いの考えに触れながら学びを深める場面が増えている。加えて、教員側もICTを活用した授業改善への意識が高まり、児童の主体性や非認知能力の育成につながる活用方法について、実践を重ねることができた。

(2) 英語力（イマージョン）強化

①モジュールタイムの導入

朝のモジュールタイムを継続的に実施することで、英語学習を日常的に積み重ねる習慣が定着してきた。音読やリスニング、語彙活動に加え、電子書籍も積極的に活用することで、児童が自分のレベルや興味に応じて英語に触れる機会が増加した。短時間であっても継続的に英語に触れる環境を整えたことで、「英語を学ぶ」から「英語を使う」意識への変化が見られ、英語力の基礎定着につながっている。

②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

イマージョン授業について定期的な協議・振り返りの場を設けたことで、教員間で「英語で学ぶこと」を目的化するのではなく、PBL型の学びを通して思考力や表現力を育成するという方向性の共有を進めている。

③中高のイマージョン部との連携

中学校・高等学校イマージョン部との連携が十分であるとは言えず、今後は、12年間を見通した学びの接続について協議を重ね、英語運用力だけでなく、探究的な学びやプレゼンテーション力の育成を視野に入れた一貫した教育の方向性を整理する必要がある。また、授業参観や情報共有を通して相互理解も深める等、教員研修やカリキュラム研究をさらに充実させていくことも重要である。

④中高のサイエンスフェスへの参加

中学校・高等学校で実施されたサイエンスフェスへ参加したことで、児童にとって「英語を使って学ぶ」ことの先にある学びの姿を具体的にイメージする機会となった。実際に上級生が探究的に学ぶ姿に触れることで、理科的な興味関心だけでなく、自ら問いを持ち学びを深めていこうとする意欲の向上にもつながっている。

⑤5年生海外研修の実施

5年生海外研修について、昨年度よりファームステイ形式を導入した。現地での生活体験や交流活動を通して、児童が実践的に英語を使用する場面が大幅に増え、異文化理解や主体性の育成につながった。現地の人々との温かな交流や自然体験を通して、児童の満足度は非常に高かった。

⑥英語力の向上

モジュールタイム、イマージョン授業、海外研修などを含めた実践的英語教育を継続してきた結果、英語検定等においても成果が見られるようになってきた。5年前と比較すると、CEFR B1 レベル相当の児童が増加し、基礎段階であるA1レベルの児童割合は大幅に減少している。単なる知識習得ではなく、「英語を使って考え、伝える」経験を積み重ねてきたことが、児童の英語運用力向上につながっていると考えられる。

CEFR レベル	2020	2021	2022	2023	2024	2025
CEFR B2	0%	0%	1%	5%	5%	4%
CEFR B1	8%	5%	6%	28%	23%	28%
CEFR A2	46%	62%	63%	42%	51%	42%
CEFR A1	46%	33%	30%	25%	21%	26%

【参考】

- CEFR B2 ... 英検準1級相当
- CEFR B1 ... 英検2級相当
- CEFR A2 ... 英検準2級相当
- CEFR A1 ... 英検3～4級相当

(3) 学院的課題＝募集大増強（70名） ※入学者 49名

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

2025年度入試内部園長推薦は9名にとどまった。

5月に併設幼稚園への説明会を行った。本校の教育方針や2コース制の特色、「内部進学特別制度」の趣旨やコース決定方法について丁寧な説明を行った。単なる制度説明にとどまらず、「どのような力を育てる学校であるか」を具体的に伝えることで、保護者の理解深化につながった。

②募集定員の見直し

2025年度は募集定員を70名としてきたが、70名の合格者を出すことは、教員数や使用教室、および児童数減少社会を考えると現実的ではないため、2026年度からは募集定員を60名として、定員を確保することができるよう、方策を練る。

(4) 宗教教育再生・強化

①「宗教の時間」への教員の参画機会増強

礼拝担当を通じて、Sr.村井の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を設けた。

学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

②教員に対する宗教教育実施

8月に学院主導で教職員に向けてカトリック教育研修を実施していただいたが、小学校内では計画することができなかったため、2026年度には何らかの形で実施したい。

5 2025年度 こども園アサンプション国際幼稚園 事業報告

【理念】

- ・キリスト教の精神に基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。
- ・愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。

【在籍日数及び入園者報告】

- ・2歳児クラス 12名
- ・3歳児クラス 58名

- ・ 4歳児クラス 59名
- ・ 5歳児クラス 73名

計202名（2025年5月実績）

【重点課題】

1. 2026年度からのモンテッソーリ教育強化への準備
(人材確保、教員研修、教具の準備、保護者説明など)
2. 園児募集に関わる事業
3. 英語教員強化への準備
4. 子育て・保護者支援
5. 各所属との交流（園児・児童・生徒・教員） および地域との連携

【具体的な取り組みと評価】

1. 2026年度からのモンテッソーリ教育強化

(1) 人材確保について

モンテッソーリ・ディプロマ保有者を2025年度に2名確保することができた。

2026年度からは希望する本園教員にはディプロマコース参加を認め、取得を支援する。

(2) 教員研修

夏季に通常の研修に加え、モンテッソーリ研修（外部）に9名参加した。2学期からは本園教員が高松マリア幼稚園を訪問し、一日を通して見学させていただいた。縦割りクラスの様子や園児の過ごし方、教員の園児への接し方を学ぶ機会を設けた。また園内研修を週1回（全20回）実施し、モンテッソーリの考え方や教具の使い方を指導した。

(3) 教具・保育環境の準備

園に保管されていた教具を全て棚卸し、壊れている物は修理するなど教具を整備した。足りないものは購入や、代替のものを作成、保護者にも協力していただくなどして7クラスを揃えることができた。今後、随時教具の充実を図りたい。

(4) 保護者説明

教育内容や行事の見直しについて保護者説明会（7月）を実施した。また3学期にモンテッソーリの体操指導者による講演会や本園教員によるお話会の機会を設定した。

2. 園児募集に関わる事業

(1) イベントについて

未就園児イベント「みんなであそぼう」により多くの参加者に来ていただけるよう内容を見直した。

内容と実績 ○5月25日 「おけいこフェス」（外部イベント）参加 於 ウェルビー箕面

○6月23日 「シャボン玉ショー」18組

○7月5日 「夏まつり」（本園行事）22組

○7月23日 「造形教室」19組

○8月13日 「親子コンサート

(2) ネット発信について

イベントの告知を中心に発信した。今後は園の教育内容などを紹介するツールとして活用する。登録者数 161 名 (3 月 31 日時点)

(3) プレスクールについて

2026 年度のプレススクールは合計 24 名となり週 2 回 (火曜日・木曜日コース) の実施となった。プレススクールの内容の見直しや発信方法を今後の課題として検討する。

3. 英語クラス導入準備

2027 年度から導入する縦割りのイングリッシュコース構想をまとめた。

小学校へ繋がり、アサンプション国際として一貫した英語教育の導入に向け準備を進める。

4. 子育て・保護者支援

(1) 新 2 号認定に対しての改善

2 号認定は定員が常に満たされているため、新 2 号認定の取得が増加した。以下の対策を実施した。

・給食について

長期休暇中の預かり保育については新 2 号認定および 1 号認定はお弁当、2 号認定は給食であるため 1 つの保育室に給食・お弁当が混在していたが、保護者支援として新 2 号・1 号認定にも給食を提供するように改善した。2026 年度からは水曜日も全員給食とし、教育面からも全員が同じものを食べられるようにする。

・駐車場について

新 2 号認定の方の利便性を考慮し、立体駐車場の利用を可能にした。ただ台数が増え、満車になることが多くなったので保護者への利用ルール徹底が今後の課題。

(2) スクールバスについて

ルート内であれば可能な限り保護者の希望に合うようにバス停を移動、追加した。

(3) その他

遠足の行先が固定化されているとの意見があり、お別れ遠足では「キッズ・プラザ」を園として初めて訪問した。

5. 各所属との交流 (園児・児童・生徒・教員) および地域との連携

(1) 架け橋プロジェクトとして萱野北小学校と秋に交流イベントを行った。来年度以降も範囲を広げて継続して理解を深めていきたい。

(2) 併設小学校および中高の児童・生徒と下記の日程で交流を持つことができた。

- ・ 10月20日～30日 アサンプション国際高等学校2年生の保育体験「ふれあい実習」
- ・ 10月25日 アサンプション・チャリティーデー
- ・ 11月8日 学院合同避難訓練
- ・ 1月3日 アサンプション国際高等学校の保育実習
- ・ 1月15日 フィリピン・アサンプションカレッジの幼稚園訪問・交流

第3 財務の概要

●入学者数(単位:人)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
高等学校	107	124	155	132	96
中学校	36	48	56	52	47
小学校	84	68	67	55	56
認定こども園	77	82	84	65	70
合 計	304	322	362	304	269

●在籍者数(単位:人)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
高等学校	312	314	376	381	358
中学校	139	132	136	147	147
小学校	367	399	401	381	365
認定こども園	254	238	251	218	202
合 計	1,072	1,083	1,164	1,127	1,072

●教職員数(単位:人)

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
高等学校	教員	21	21	24	30	31
	職員	1	1	1	1	1
中学校	教員	22	19	18	12	11
	職員	1	1	1	1	1
小学校	教員	34	39	39	35	35
	職員	1	1	1	1	1
認定こども園	教員	17	18	16	16	17
	職員	2	1	2	1	1
法人本部	職員	8	8	8	7	9
合 計	教員	94	97	97	93	94
	職員	13	12	13	11	13

●資金収支計算書(単位:百万円)

項 目		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 補正予算
収入の部	学生生徒等納付金収入	645	630	688	686	671
	手数料収入	6	7	6	6	7
	寄付金収入	8	2	7	11	5
	補助金収入	459	483	526	572	514
	資産運用収入	0	0	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	0	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	15	56	66	60	56
	受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
	雑収入	31	12	64	54	37
	借入金等収入	240	380	320	320	320
	前受金収入	65	77	67	55	69
	その他の収入	680	734	931	1,126	917
	資金収入調整勘定	△ 99	△ 94	△ 155	△ 159	△ 85
	収入の部小計(A)	2,050	2,288	2,521	2,731	2,510
支出の部	前年度繰越支払資金	87	27	81	116	201
	収入の部合計	2,137	2,315	2,601	2,848	2,711
	人件費支出	818	812	892	846	873
	教育研究経費支出	223	214	201	222	168
	管理経費支出	96	126	135	121	129
	借入金等利息支出	1	1	1	1	2
	借入金等返済支出	350	316	373	360	360
	施設関係支出	10	23	7	6	0
	設備関係支出	6	11	37	14	22
	資産運用支出	122	145	178	246	154
	その他の支出	538	611	769	900	763
	予備費					3
	資金支出調整勘定	△ 54	△ 24	△ 107	△ 70	△ 81
	支出の部小計(B)	2,110	2,234	2,485	2,647	2,393
	翌年度繰越支払資金	27	81	116	201	318
	支出の部合計	2,137	2,315	2,601	2,848	2,711
(A-B)年度収支差額		△ 60	53	36	85	117

事業活動収支計算書(単位：百万円)

項 目			2021年度 実 績	2022年度 実 績	2023年度 実 績	2024年度 実 績	2025年度 補 正 予 算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	645	630	688	686	671	
		手 数 料	6	7	6	6	7	
		寄 付 金	8	2	7	11	5	
		経 常 費 等 補 助 金	459	483	526	572	514	
		資 産 運 用 収 入	0	0	0	0	0	
		事 業 収 入	0	0	0	0	0	
		付 随 事 業 収 入	15	55	65	59	56	
		雑 収 入	31	12	55	60	37	
		教 育 活 動 収 入 計	1,164	1,191	1,349	1,395	1,289	
	事業活動支出の部	人 件 費	815	819	884	850	895	
		教 育 研 究 経 費	316	291	293	310	258	
		内 減 価 償 却 額	93	77	92	88	90	
		管 理 経 費	97	127	128	124	129	
		内 減 価 償 却 額	1	1	3	3	1	
		徴 収 不 能 額 等	0	0	0	0	0	
		教 育 活 動 支 出 計	1,228	1,237	1,305	1,285	1,282	
教 育 活 動 収 支 差 額			△ 64	△ 46	43	110	7	
教育活動外収支	収事業の活動部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	0	0	0	0	0	
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	0	0	
		教 育 活 動 外 収 入 計	0	0	0	0	0	
	支事業の活動部	借 入 金 等 利 息	1	1	1	1	2	
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	0	0	
		教 育 活 動 外 支 出 計	1	1	1	2	2	
	教 育 活 動 外 収 支 差 額			△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1
経 常 収 入			1,164	1,191	1,349	1,395	1,289	
経 常 支 出			1,229	1,239	1,306	1,286	1,284	
経 常 収 支 差 額			△ 65	△ 48	43	109	6	
特別収支	収事業の活動部	資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0	
		そ の 他 の 特 別 収 入	0	3	11	13	0	
		特 別 収 入 計	0	3	11	13	0	
	支事業の活動部	資 産 処 分 差 額	1	1	0	0	0	
		そ の 他 の 特 別 支 出	1	1	9	0	2	
		特 別 支 出 計	2	2	10	0	2	
	特 別 収 支 差 額			△ 2	2	1	13	△ 2
	予 備 費			0	0	0	0	3
基本金組入前当年度収支差額			△ 67	△ 46	43	122	1	

(参考)

基本金組入前当年度収支差額(減価償却控除前)	28	33	138	213	92
事業活動収入計	1,164	1,194	1,349	1,395	1,289
事業活動支出計	1,231	1,240	1,306	1,286	1,287